令和２年度　大和中央高等学校　学校評価総括表

奈良県立大和中央高等学校（通信制）

教　育　目　標	「自律」「敬愛」「進取」の校訓のもと、自主自立の精神をもって自分がなすべきことを適切に判断し行動できる生徒、情操豊かな心をもって自他の人格を尊重できる生徒、自ら進んで目標を定め、目標達成に向かって真剣に努力し、未来を切り開いていけるたくましさをもった生徒の育成を図る。	総合評価
運　営　方　針	通信制の特長を生かし、生徒個々の実態に応じた指導を展開し、基礎学力の定着を図るとともに、自律的な生活態度と主体的に学ぶ姿勢を育てる。	B

前年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標
・単位修得の向上がみられた。引続ききめ細やかな指導を継続していく。 ・挨拶の励行により、習慣として身に付いてきた生徒が増加している。 ・生徒会活動も活発になっており、交流等も積極的に行っていきたい。 ・順慶まつりへの参加等、地域との連携を伴う学習活動は成果があった。 ・地域連携から通信制で頑張っている生徒の様子も伝わっていると評価をしていただいている。 ・SC や SSW との連携で生徒理解に対する情報共有が進み、生徒支援に繋がっている。 ・進路情報の迅速で適切な提供ができた。引続き関係各所との連携に努める。	(1)　自立した社会人となるための基礎形成を図る。 (2)　生徒理解による基礎学力の定着に努める。 (3) 好ましい人間関係構築能力や社会性を育む。 (4) 生徒の安全を守る取組を充実させる。 (5) 自他の生命を大切にする行動ができるよう、指導の浸透を図る。 (6) 働き方改革の推進を行う。	・教育活動全体を通して、規範意識や倫理観を粘り強く指導し、ＴＰＯに即した行動がとれるよう指導に努める。 ・キャリア教育や進路ガイダンスを推進し、進路意識の向上を図るとともに、進路未決定者の減少に努める。 ・学習指導の工夫充実を図り、生徒の学習意欲の向上に努め、高校卒業という目標達成に向けた支援を行う。 ・支援を要する生徒の的確な把握に一層努め、教職員間の共通理解をより深めながら対応する。 ・「地域と共にある学校づくり」を推進するなど、地域力に学びながら、社会性の育成に努める。 ・生徒の一層の活躍の場となるよう、学校行事等の工夫、見直しを行う。 ・危機管理マニュアル等の整備を進め、地域の協力を得て学校安全体制づくりを推進する。 ・「命の大切さ」を考えさせる取組を講演会や集会等も活用しながら展開していく。 ・働き方改革の観点から、業務内容や役割分担等の適正化を図る。

評価項目	具体目標	具体的方策・評価指数	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方法等	学校関係者評価及び改善方策
教　務　部	・多様な生徒たちの個々の願いに対応できる教育環境を作る。 ・学習指導の向上を図る。 ・地域との連携を図り、地域に貢献する事の大切さや社会性の育成を図る。	・自学自習の方法を理解させ、生徒の気持ちを学習に向けさせるように努める。 ・各科目の単位修得率を前年度と同じにする。 ・生徒のレポート作成の支援のあり方について研究する。 ・情報発信機器の活用を進める。 ・地域との連携をさらに向上させ、その取り組みが教科科目にも生かせるよう努める	B	・コロナ感染予防のために、前期はスクーリングが例年とは違う形で行われ、特に一年時生は学習の方法などをしっかり教える機会が少なく、心配もしていたが、登校出来るようになってからはあらゆる機会を使って、丁寧に通信制の本来のシステムとコロナ対応の臨時のシステムを周知することに努めた。 ・コロナ渦でオンラインの使用を試しつつ、勧めている。 ・地域との連携や、横断的な教科の取り組みについて、本年度はコロナ対応のため進んでいない。しかしコロナ渦で起こっている社会状況の変化を分析し、生徒に伝えることや、生徒の生活の困窮に眼を向けることが必要であると考える。	・前期の休講のため、自学自習で行う学習活動において生徒に苦労をかけたが、学校再開後の登校日では、例年以上に個別対応を含め、生徒の学習システムの周知に努めた。 ・公立通信制は奈良県で一校のため、コロナによる学習システムの変更などの対処については独自に考えないといけなかったため、大変だった。 ・グーグルクラスルームの活用によって生徒とのコミュニケーションの取り方の幅が増えた。 ・成績業務は賢者の活用は今年も出来なかったか、来年に向けては指導要録の作成からでも活用に向けて動きたい。 ・地域との連携については、今年度は難しかった	・コロナ禍により、例年当たり前にできていることが行えない一年だったと思います。一方で、コロナ禍だったからこそできたこともあると思います。 冷静に状況を見つめ、生徒にとってよい方法を、先生方で相談して、実施してください。
生徒指導部	・基本的生活習慣をしっかり身につけさせ、生徒が主体的に学習活動できるような環境をつくる。 ・積極的に生徒会活動に取り組み、より一層充実した地域活動に取り組む。 ・さまざまな問題を抱えている生徒の理解と相談しやすい環境をつくる。	・登下校時に校門や職員室で声をかけ、生徒と気軽に話しやすく状況をつくる。名前を呼んで声をかけることにより、生徒との距離が近くなるように努める。教員は、クラスの生徒はもとより、１０人以上の生徒に声をかけ、１０人以上と話す努力をする。 ・通学路の清掃活動には、５０人以上の参加、順慶まつりには、全生徒の半数以上は参加できるようにする。地域の方々との交流を深める。 ・より一層、保護者、SC、SSW 等との連携を強化し、教師間との情報を共有しながら、適切な指導方法を模索する。	B	・マスクをして、挨拶ができる生徒が増えた。ソーシャルディスタンスを保ちながら、職員室の出入室もする生徒が多い。職員と生徒の関係は良好で明るい雰囲気が出ている。しかし学習活動が進んでいない不登校生徒をいかに動機づけするかが課題である。 ・コロナ禍で生徒会活動が十分できなかった。順慶まつりも中止となり、地域との交流はできなかった。来年は従来どおりの活動をしたい。 ・スクールカウンセラーとの連携がうまくできている。教師間の情報交換を常に行っている。	・コロナ禍において、登校するタイミングを逃してしまい、また不登校傾向になってしまった生徒のケアが十分にできなかった。今後一層、電話や家庭訪問等をして、学習意欲を高めることに努めたい。 ・行事の縮小の中で、できるだけ、工夫をして取り組んだが、より一層生徒と協力して楽しめる行事を企画していきたい。 ・教師間の情報交換を常に行っているので、連携がうまく行っている。このまま継続したい。	・マスクをつけての生活にももう慣れてきたと思います。来年度も、マスクをした新入生が入ってきて、生徒の顔を覚えるのに苦労されると思います。これまで同様に、細やかな声がけを実施していただくことをお願いします。
進路指導部	・進路指導体制を強化し、生徒の進路意識を向上させる。 ・進路選択に関わる情報の提供と適切な助言指導を行う。 ・総合学習「つどい②」の充実を図る。 ・部内の役割分担を偏ることなく、部員に適切に振り分け、また業務内容の精査も行う。	・定時制や高進協、労働局との連絡を密にし、進路に関する情報を入手し、生徒に情報提供をおこなう。 ・進路希望調査や担任面談、生徒への日常的な声がけを通じて生徒の進路希望を把握する。 ・総合学習「つどい②」において、自立した社会人になるための自身の生き方や将来について考えさせる。 ・役割分担を適切に振り分けることで、一人一人の役割の適正化を図る。また、業務内容の見直しも図る。	B	・生徒の多様な進路希望に対し、適切な進路情報を迅速に提供できた。 ・新型コロナウイルスの影響により、進学や就職のスケジュールが急遽変更になった。 ・面接指導（進学・就職）に関して、　生徒が自信を持って面接試験に臨めるよう十分に練習させられた。 ・総合学習「つどい②」で、進路目標を持つ大切さを伝えられた。 ・役割分担をしたが、作業量や内容が偏った。今後に向けて検討していきたい。	・積極的に生徒に声をかけ、また、面談などを通じて生徒の進路希望を把握するようにする。 ・保護者との連絡を密に取り、学校と生徒、保護者が協力して生徒の進路実現をめざす。 ・卒業対象生で、就職を希望する生徒の中にはアルバイト未経験の生徒も多い。選択肢として「高卒求人で正社員を目指す」「ハローワークを通じ、パートタイム（アルバイト）などで経験を積む」「若者サポートステーションで自分の適性を見つける」など、生徒・保護者の希望を尊重し、それにあった対応をする。	・多様な進路希望を持っている通信制の生徒です。その希望に対応していただき、ありがとうございます。次年度も、生徒の希望を実現してやれるようお願いします。
保体環境部	・心（精神的側面）身（身体的側面）ともに、常に生徒の健康状態に留意する。 ・多様な生徒が在籍する中で、適切で迅速な対処を行える教員の知識・技能・専門性を高める。 ・清掃活動を定期的に行い、校内外の美化に努め、安心・安全な学校環境を整える。 ・部内の役割分担を偏ることなく、部員に適切に振り分け、また業務内容の精査も行う。	・生徒の健康状態を把握するために、生徒の情報交換会議等を年間 6 回は行う。 ・教員への救命講習会を行い、教員全員が参加して AED を使用した心肺蘇生法等の専門的な知識・技能を身につける。また、SHL・SSW・SC と常に情報の共有を図り、連携を深めて適切な対応に努める。 ・通学路、教室、廊下等の清掃活動を年間 4 回は行い、生徒が　学習活動を行いやすい環境づくりに努める。 ・役割分担を適切に振り分けることで、一人一人の役割の適正化を図る。また、業務内容の見直しも図る。	B	・新型コロナウイルス感染症対策で、職員会議や部会等で生徒の健康状態の把握や情報交換を月 1 回行うことができた。来年度に向けて、登校できていない生徒等の健康状態の把握を保護者等と連絡を密に行うようにしていく。 ・本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で教員対象の救命講習を実施することができなかったが、SHL・SSW・SC との情報交換を徹底し、適切な指示を受け生徒の精神面での支援もできた。 ・消毒、手袋、ソーシャルディスタンス等の感染症予防対策を行い、清掃活動等を現時点で 1 回実施できた。 ・役割分担を適切に振り分けたことで、部員一人一人がバランス良く業務に取り組めた。なお、業務内容を見直したことで内容の精査もできた。	・新型コロナウイルス感染症対策を徹底するために、今後も部会等を定期的に行い、生徒の健康状態の把握に努める。また、登校できていない生徒等の健康状態を把握するために連絡方法等の確立に努める。 ・本年度のように、教員対象の講習が実施できない場合があるので、別の方法での研修会等を考える。また、SHL・SSW・SC との情報交換をより密に行い、生徒への対応にあたる。 ・年間２回の実施であったが、今後も消毒、手袋、ソーシャルディスタンス等の新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、生徒が安全に清掃活動を行えるように努める。 ・役割分担を適切に振り分け、業務内容の整理を行ったことで、円滑に業務が進んだ。今後も分掌内の業務が偏ることのないように努める。	・コロナウイルスの脅威は、すぐには終息しないと思います。万が一のことがないように、学校でも十分に感染症対策をしていただき、安心して生徒が通える通信制にしていただけるようお願いします。 ・これまで以上に、SHL・SSW・SC との連携を強くもっていただきたく思います。
総務人権部	・式典の内容を見直し、よりよい式典の実施に努める。 ・後援会、同窓会活動を活発化させ、通信制について発信していく。 ・生徒一人ひとりを見つめ、その性格や特性を把握しながら、互いの人権を認め合い、自他共に大切にしていく心を育てる。 ・部内の業務内容を見直し、偏ることなく役割分担を行い、仕事の効率化を図る。	・前年度の反省や課題を踏まえ、綿密かつ明確なスケジュールのもと進める。 ・他分掌や後援会、同窓会、地域との連携を密にしながら諸活動や行事への協力体制をとれるようにする。 ・人権 HR,講演会、映画会の三本柱で人権学習会を実施する。より多くの生徒に学習会に参加させるため、案内文書を２回送付し、案内を徹底する。 ・業務内容を見直し、部員全員で仕事を分担して行えるよう役割分担をする。	B	・新型コロナウイルス感染症対策のため、式典は例年と内容を変更して実施することができた。 ・新型コロナウイルスの影響により後援会、同窓会総会実施及び行事への参加を中止したが、今後の活動に向けては連携をとっている。 ・案内を徹底することにより例年に比べ多くの生徒の参加があった。生徒の実態に即した内容の講演会をリモートにより実施し、自己理解を深めさせることができた。 ・細部にわたり役割分担を行ったことで、部員各自の業務分量のバランスがよくなり、仕事の効率がよくなった。	・新型コロナウイルス感染対策の徹底を図るため、式典に参列者の制限を行う。また、内容についても精選し、縮小・短縮に努める。 ・本年度は後援会、同窓会共に集会形式の総会を実施できなかったが、次年度も同じ状況になれば、どのようにしていくか、役員と、連携を取りながら検討していく。 ・生徒の実態に即した内容の研修に努め、人権学習会の更なる充実を図る。 ・本年度の仕事の内容を見直し、反省を生かしながら、より仕事の効率が上がるよう工夫と充実を図る。	・他校のようには人権 HR も十分な時間が取れないと思います。スクーリングや特別活動全体を通して、人権を尊重する生徒を育ててください。 ・同窓会の活動が活発になってきているように聞いています。次年度もさらに活発になるようお願いします。